

肺腺癌 術後再発 当院治療 4 年経過

患者様は埼玉県在住の女性で、2009 年 04 月の健康診断で胸部異常陰影を指摘され、大学病院で経過観察をしていましたが、2010 年 11 月の胸部 CT 検査で陰影増大が認められ、気管支鏡検査で肺腺癌と診断されました。遠隔転移が無いことから、2011 年 01 月に手術を行い、術後診断は肺腺癌の Stage II A(ステージ 2A)となりました。そして、術後の抗癌剤治療として CBDCA+PTX(カルボプラチン+パクリタキセル)を 3 コース施行されました。それ以降も大学病院にて PET/CT、頭部 MRI、腫瘍マーカーにて経過を観察していましたが、2013 年 1 月に行った PET/CT 検査にて左肩甲骨下筋に FDG 集積が認められ、術後再発と診断されました。同年 03 月より、分子標的薬 イレッサの投与が開始されました。

図 2-1 に 2013 年(平成 25 年)02 月の大学病院で行った CT 検査画像を示します(図 2-1)。左肩甲骨下縁に 9×4 mm に再発があること、右 S9 に小結節があり注意が必要であると判断しました。

2013 年(平成 25 年)4 月中旬、患者様が 56 歳の時に新免疫療法(NITC)を開始しました。

免疫検査のサイトカインは、IFN γ が 1.7 IU/ml(10 以上が良好)、IL-12 は 7.8 pg/ml 以下(7.8 以上が良好)となっており、免疫は非活性の状態でした(図 1: サイトカインの経過)。またこの時、イレッサの副作用と考えられる下痢の症状が出ていたので、連日投与から隔日投与に減量したところ、5 月中旬に症状が改善したことから、2 日連続で服用し 1 日休むという投与方法に変更しました。また、皮膚のかゆみなどの症状が強く出ておりました。また、背部痛があることから、大学病院の主治医より痛み止め(トラマールおよびカロナール)を処方されておりました。

2013 年(平成 25 年)06 月(図 2-2)、PET-CT 検査が大学病院で行われました。所見は、左肩甲骨下筋の集積は前回より減弱しており、他の明らかな再発、転移は認められないこと。また、右肺の微小結節は良性所見と考えられるとのことでした。

この時の免疫検査のサイトカインは IFN γ が 67.5 IU/ml(10 以上が良好)、IL-12 は 49.5 pg/ml(7.8 以上が良好)と前回に比べ大きく改善しました。

PET-CT で改善が認められたことから、同年 07 月よりイレッサを隔日投与に減量しました。これにより、皮膚や頭皮のかゆみが軽減しました。

同年 10 月末、痛みが続いていることから大学病院の主治医の提案でイレッサを隔日投与から 2 日連続で服用し 1 日休むという投与方法に増量し、痛みが減るか様子を見ることになりました。

2014 年(平成 26 年)02 月の PET-CT で変化なしと診断されたことから、イレッサを隔日投与に減量しました。

2014 年(平成 26 年)06 月(図 2-3)の CT 検査の左肩甲骨下縁部は筋肉のみとなっていること、右 S9 に小結節は変化なしと判断しました。これを受けて新免疫療法(NITC)の方は、食品を 4 種類から 3 種類に減量しました。

転移巣が改善したことから CT 画像上確認しにくくなってはいますが、背部痛が続いていることから、まだ転移巣が残っている可能性が高いと考えています。

今後も、厳重に経過観察をする必要があると考えられます。なお、イレッサは隔日投与で継続されております。

大学病院にて 2015 年 04 月に PET 検査、同年 09 月の MRI 検査、同年 11 月に CT 検査(図 2-4: 新免疫療法開始から 2 年 7 か月後)が行われ、再発の所見は無く病状は落ち着いているとの連絡を主治医から頂きました。

また、当院でも図 2-3 の CT 検査結果画像に対して、左肩甲骨下縁足側の筋肉内は変化なしでほぼ瘢痕の状態で推移していると考えられること、また、右 S9 の小結節は変化なしと判断しました。

2015 年 11 月においては、新免疫療法(NITC)の方は医薬品 1 種類、OK432 の経口投与/1.5 か月、健康食品 2 種類を 1 日 1 包まで減量し、イレッサの隔日投与を併用しています。

そして、2017 年 2 月の診察では、2016 年 11 月の大学病院の PET 検査で問題が無かったとのことから、新免疫療法(NITC)の処方、健康食品 1 種のみまで減量しました。2017 年 4 月末、患者様より調子は良いと報告を受けております。

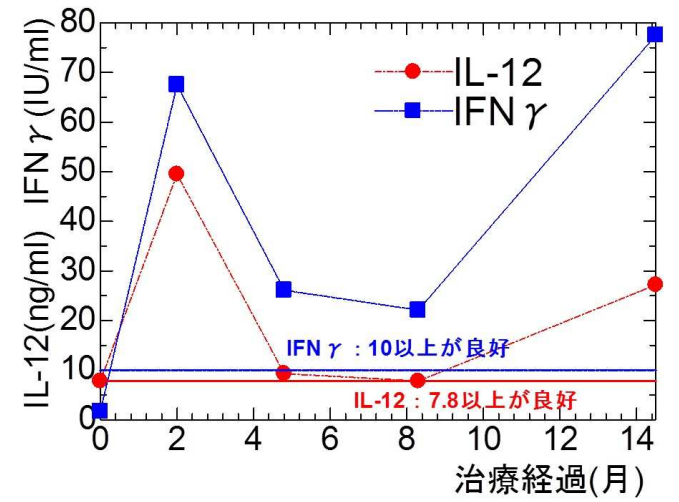


図1 サイトカインの経過

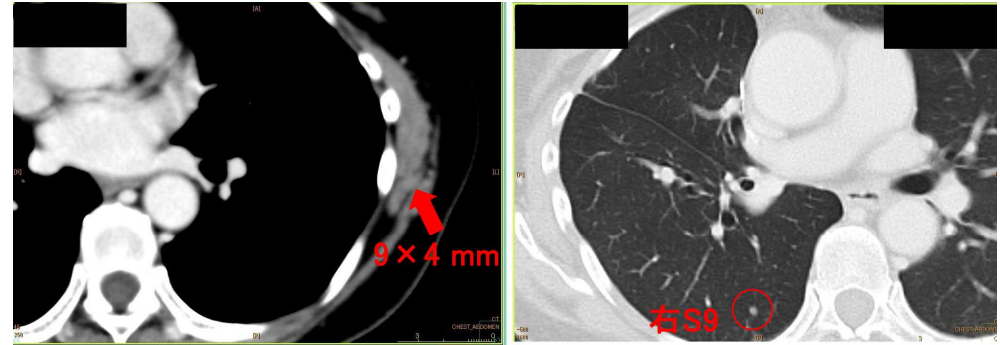


図2-1 2013年02月
(新免疫療法開始から1.5か月前)

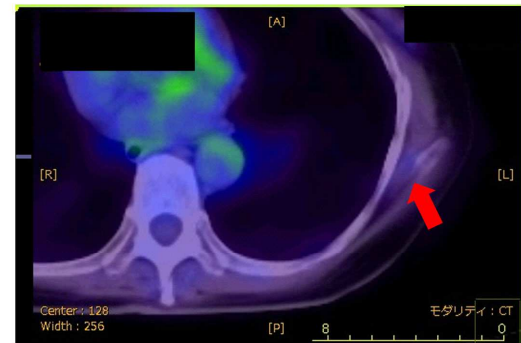


図2-2 2013年06月
(新免疫療法開始から2.4か月後)

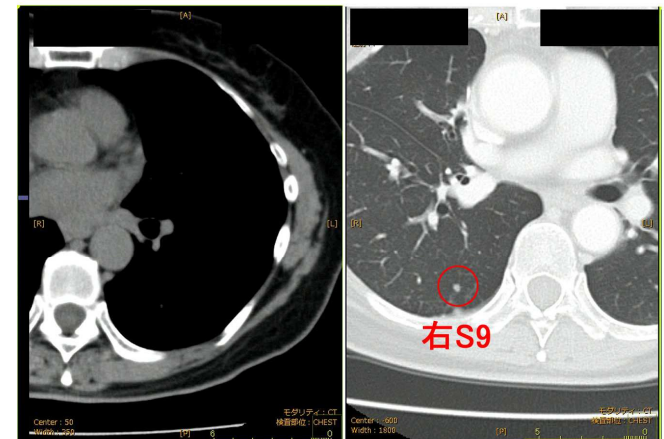


図2-3 2014年06月
(1年2か月後)

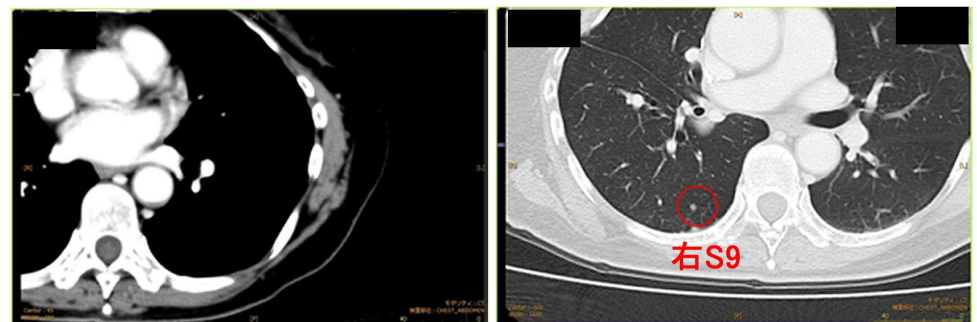


図2-4 2015年11月
(2年7か月後)